

社会的活動報告

海難を未然に防ぎ、海上交通の安全を確保する／敦賀海上保安部 小さな船に掲げるセーフティフラッグをデザイン。

生活科学学科 生活デザイン専攻



春先に、短大のホームページを見て…と敦賀海上保安部より電話が。ここ数年、コロナ禍でも密になりにくい海のレジャーが流行り、福井県沿岸でも小型のボートで海に出られる方がかなり増えたそうです。その結果ミニボートやシーカヤック、SUP（スタンドアップパドルボード）などの事故が急増し、対策として、目立つ・シャレた・映えるセーフティフラッグを若者目線でデザインして欲しいという要望でした。

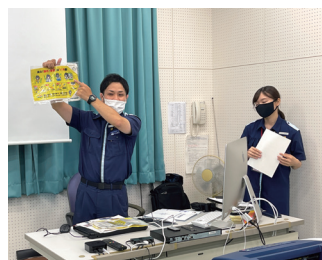
セーフティフラッグとは、船体が小さいボート用で、他の船から発見されやすく、衝突事故などを未然に防止するために掲げる旗。今回グラフィックデザインの授業を受講する2回生18名が、様々な視点からアイデアを重ねて、合計28案のデザインを提案しました。

最終的に自治体や関係者による審査を経て、池田晴香

さんのデザインが採用。高い視認性と年齢や性別に関係なく多くの人が使いやすいような躍動感のある波のデザインが評価されました。11月には短大において感謝状の贈呈式が行われ、今後の海上交通の安全確保に役立てたいというメッセージが伝えられました。



海保の巡視船などから見つけやすい鮮やかなオレンジと黄色のデザインは、特に多く発生しているボートが沖合に流され帰れなくなってしまった、という事故などの救助にも繋がるとのことです。



海上保安部の担当・石丸さんより、課題や目的・ターゲットについて詳しい事前説明。



各自のアイデアを、Macのアプリを駆使して現場で効果を発揮できるデザインに仕上げる。



贈呈式には、新聞やテレビ等、多くのマスコミが取材に訪れ、社会性の高さが感じられた。



フラッグは安全指導を受けた後に配布、利用されている。(写真提供／敦賀海上保安部)